

2007 年度 「居住環境デザイン演習」課題

Who・What・Where・When・Why・How・For anything・For anyone

「ライフスタイルによる住空間」

・ 出題者

衣袋洋一

山崎一也：web 型非常勤講師，Allies and Morrison Architects

・ 講評者

阿久津仁：阿久津仁建築設計室

阿久津美智彦：アークシップ設計・計画

筒井公一：筒井公一建築研究室 一級建築士事務所

矢田部雅子

七田裕：首都高速道路株式会社 関連事業部 関連事業開発グループ

牛込具之：日本 M.A.O. 一級建築士事務所

(敬称略)

・ TA

田村翔

長門宏明

課題：「住宅」(個人設計)

1) ねらい1：対話からイメージを構築

設計とは、施主と設計者との対話から生まれるものであり、対話を繰り返すことにより生み出される「与条件」「問題点」、そこから生み出される「空間、形態に対するイメージ」「おぼろげな解決策」、そして具体的な「設計」を大切にする。聞き上手

デザインする能力と同じくらい施主とのやりとりを進めるコミュニケーション能力(対話する能力)が重要である。引き出す能力

2) ねらい2：ID (Industrial Design)

建築空間の内部又は外部を構成する要素(インテリア、エクステリアを構成する家具調度品、照明機器、その他)も考慮してインテリア及びエクステリア = 外部空間 & ファニチュアを設計する

3) ねらい3：周辺環境

「住居」を通じ、形態、空間と街路、隣接住居領域等の「境界領域」 = 「周辺領域」を考え

る。 アフォーダンス

今回は、与えられた敷地とコモンスペースの両者を提案すること。コモンスペースと住宅が連続し、住宅地全体がひとつの群となるような提案が望ましい。

4) ねらい4：建築製図

建築製図をとおして、情報としての図面（平面図、立面図、断面図、詳細図等々）をきちんと描くこと。

5) ねらい5：建築設計

目的設定：テーマ（物語、夢を抱かせ、空間、形態がイメージさせる抽象的言葉）の設定。

データ収集&分析と問題抽出：

設計方法論獲得のために、参考にすべき建築家、作品データ収集

客観的データとしての敷地、周辺環境の調査と施主の意見徴収

各々の分析を通して、からは設計方法の組み立て、からは必要な機能、寸歩、ボリューム等々の把握

6) 設計と条件（施主との対話からライフスタイルをイメージし、設計する）

・家族構成：別紙参照

・敷地：別紙参照

・周辺環境：別紙参照

・構造：各自設定（自由であるが、構造・構法を生かしたものとする）施主の要望があればそれを優先
構法が創り出す「空間」「形態」の特徴を充分把握する事

構法： 建築の構成方法

材料および構成部分により構成される建物の実体

工法：建物の組み立て方、造り方、施工の方法。広義には構法を含む

・法規：集団規定 - 市街化区域・第2種住居専用地域・その他指定（高度、防火等）無し。

単体規定 - 廊下幅員、天井高、採光有効面積等々基本的寸法と大きさ。

建蔽率,容積率 - 別紙参照

基本的なことを考え、あまり「法規」にはこだわる必要はないが、基本だけは熟知しておくこと。

・所要室：(施主とのヒヤリング等で設定する)

・その他：(施主とのヒヤリング等で設定する)

8) 提出図面

- ・計画説明：完成に至るまでの設計者の意図（計画趣旨）を文字、数値、画像等々の情報をまとめ、他人（施主）にわかりやすいようにプレゼンテーションする。
文字、図等のレイアウトに注意し、全体をグラフィカルに表現すること。
- ・周辺環境図：縮尺、表現は自由。どこに、どのような環境、どのように、方位等々がわかるように。
建物は屋根伏せで表現し、周辺環境および外構計画を含めて表現する。（影付けをする）
- ・平面図：各階平面図（1階平面図は配置、外構を含む）
縮尺：自由（家具の配置、詳細まで記述）
- ・立面図：（主要2面・影付けをする）
縮尺：自由（背景、添景等の記述）
- ・断面図：（主要1面）断面図を見れば、その人の設計センスが分かるといわれるほど重要です。
断面図＝空間から考える建築家もいるほどです。
縮尺：自由（家具の配置、詳細まで記述）
- ・透視図：（外観および主張したい内観）
外観は他の建築物、車、人、植栽等周辺環境まで含み、内観は家具、人間等の添景を入れること
- ・その他：自分のコンセプト、表現したいこと

9) 用紙

- ・サイズ：A 1 一枚（紙質は自由。一枚に全ての図面を収めることは密度ある表現になる。レイアウト等に十分気を付けること）

10) その他

- ・寸法：スケールで表現する
- ・方位：作図する時は、紙の上部を「北」にするのが原則。必ず方位を表す「記号」を書き込むこと
- ・部屋名：その場所に必ず記入すること

11) 日程

4月12日	ガイダンス（授業説明、第一課題出題）
4月19日	第1回総合ミーティング&アナログエスキス（施主ミーティングからのキーワードの抽出）
4月26日	第2回総合ミーティング&アナログエスキス（施主ミーティングからのキーワードの抽出）
5月3日	憲法記念日
5月10日	第3回総合ミーティング&アナログエスキス（コンセプトから記号・イメージ図への変換）
5月17日	第4回総合ミーティング&アナログエスキス（イメージを図面化）
5月24日	第5回総合ミーティング&アナログエスキス（イメージを図面化）
5月31日	第6回総合ミーティング&アナログエスキス（イメージを図面化）
6月7日	提出（A1用紙・PDF）

6月9日 講評会&ガイダンス(第二課題出題)

各週の総合ミーティング&アナログエスキスでは3次元ObjectCADでシュミレーションした空間・形態を、未完成であっても図面化(透視図・平面図・断面図・立面図)し表現してください。(必須)
この課題に取り組んだデータ(スケッチ、写真、言葉等)から最終に至るまでのデータ、図面等を「Web Studio」上に記載すること(必須)

講評会

6月9日(土)午後1時から、情報処理演習室で居住環境デザイン演習第一課題講評会を行いました。
講評内容はこちらから閲覧することができます。

r05005	荒井拓也	「Spiral House」
k05014	井上雅子	「橋の家」
r05013	梅澤佑介	「L-house」
r05023	川合愛美	「compo house」
r04029	小林悠太	「油絵画家の家」
r05053	高橋亜里沙	「遭遇の街」
r05054	瀧田亮輔	「庭から思い出がこぼれる家」
j05080	田中慎一	「COMPLEX」
r05067	中村光希	「FLOWER HOUSE」
r05080	本多稔	「多目的音楽室」
r05087	三塚悠	「house 0」
r05097	和田萌実	「みんなを繋ぐ畑」
r04026	鴻丸誠弘	「Rotation House」
r05036	齋藤高慶	「balance house」
r05047	鈴木愛子	「『なみ』で繋がる家」
k05085	津村秀記	「大黒柱の住宅」
j05090	徳田直之	「劇場の家」
r05066	中曾万里恵	「オウチでアウトドア」
r05070	野口直樹	「屋根ネットワーク～一枚が生み出す物語～」
r05079	古橋知枝	「Story Factory」
j05133	矢野龍太	「家族の嗜好を旅する家」
r05092	山中賢一	「走ろうか、つくろうか、語ろうか、…」
r05093	山本健太	「食宅」
k05131	渡邊純矢	「ツラレルモノたち」

< 講評会の様子 >



居住環境デザイン演習'07の詳細はweb-studio 及び Itai-Lab Homepage へ！